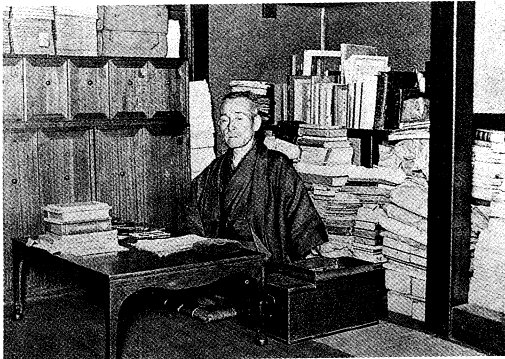


平成5年度第1回企画展

「明治はじめて物語」

会期 4月17日(土)～6月13日(日)

※ 期中月曜日・祝日の次の日(4月30日・5月6日)休館



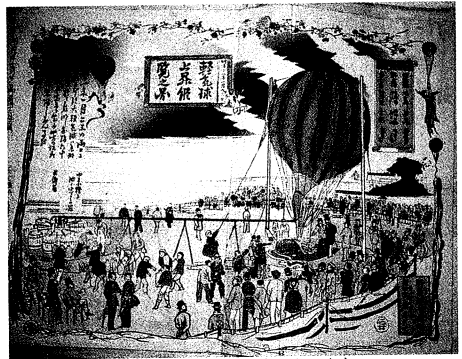
▲ 石井研堂と書齋  
「書物展望」(通巻50号、昭和10年)口絵・福島県立図書館蔵

今年、本県出身の石井研堂の没後五〇年にあたります。研堂(民司)は、慶應元年(一八六五)に本県郡山市に誕生し、郡山小学校(金透小学校)に学び同校教員となり、明治十八年(一八八五)辞職後、上京して少年雑誌の編集に従事し、一躍有名になりました。研堂は、民間の研究者として、教育者として、児童文学の作家として、また明治文化研究会(代表吉野作造)の重鎮として、多彩な活動をしながら多くの著作を発表しました。研堂の著書のうち、『明治事物起原』は、今もなお名著として有名です。明治四十一年に刊行し、昭和十九年(一九四四)に改訂増補版を刊行しました。彼は、その前年、同書校正中に病に倒れ

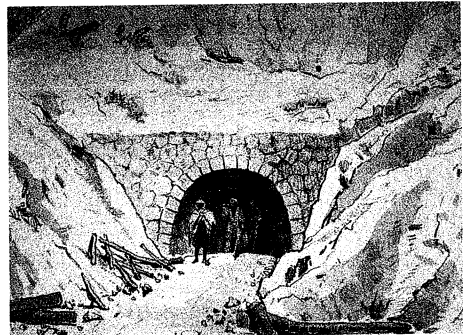


▲ 教育幻燈(明治中期)の映像  
幻燈用ガラス原画は、三春町歴史民俗資料館蔵

亡くなりました。研堂は、明治時代にわが国ではじめて行われるようになった制度や、はじめて使用されるようになった文物や、はじめて流行した風俗を追求しました。この企画展では、石井研堂の著書



▲ 「軽気球上昇飛覧之図」(明治11年)  
石井研堂錦絵コレクションより・個人蔵



▲ 高橋由一石版画「耶麻郡入田付村新道大峠隧道北口」  
「三島県令道路改修記念画帖其之二福島県之巻」  
(明治18年)より・山形大学附属博物館蔵

原稿、遺品、錦絵コレクションなどの資料を展示することによって、研堂の業績を広く紹介します。そして、彼が興味を持った『明治事物起原』の世界のうち代表的な資料を展示して、わが国の近代化のはじまりの様子を考えてみたいと思います。

(企画展記念講演会)  
四月二十五日(日)  
「明治の子とも文化と石井研堂」  
国立教育研究所員 板倉聖宣氏  
五月十六日(日)  
「よみがえる石井研堂」  
著述業 山下恒夫氏